

インターネットテューリアル： 楽位置楽 The Tutorial の開発と実践

丹羽雅之、鈴木康之、高橋優三
(岐阜大学医学部医学教育開発研究センター)

はじめに

いま医学教育は新しくなりつつある。その具体例の一つがPBLテューリアル教育の導入である。PBLテューリアル教育とは学習者が臨床症例等のシナリオに基づきグループ討論と自己学習を行い、能動的に知識修得と問題解決能力を高めていく有用な学習法である。しかしながら多くの学習室や多人数のテューターなどの教育資源を必要とし、時間的、空間的制約がある。

医学教育開発研究センター(MEDC)は全国利用型施設として2001年4月に開設され、その位置付けから全国の医学生を対象にした新たな医学教育方法を模索している。その一つとして実施してきたのが楽位置楽The Tutorialと名づけたインターネットテューリアルである。インターネットテューリアルは従来からのテューリアル教育とは別の視点からMEDCが開発しているものであり、インターネットの活用による、時と場所を選ばない、“いつでも”、“どこでも”、“だれでも”医学教育に参加できる遠隔教育システムである。当初メーリングリストをベースに運営してきたが、参加者にとってより親しみやすく、より快適なシステムを構築すること、延べ参加者数が1200名を超え、さらに複数の大学が授業の一環として楽位置楽The Tutorialを採用したことから、参加者の管理が正確かつ簡単なデータベース機能を備えたシステムの必要性が高まった。今回使いやすくまた親しみやすいwebベースのシステムを開発・構築したのでその内容を紹介し、より良いインターネットテューリアルにすべく、その問題点、改良点を考察する。

1. コースの企画、運営のあらまし

コースディレクターは単独で、あるいはコース内容に詳しいリソースパーソンとともに新規コースを企画し、「コース目標」「テューターガイド」「コースシナリオ」を作成し、MEDCに提示する。企画が適切であれば、MEDCはコースの概要、開始時期などを「楽位置楽The Tutorial」システムに登録し、コースをMEDCホームページ(<http://www.gifu-u.ac.jp/~medc/>)内「楽位置楽The Tutorial」に掲示する。参加希望の学生、テューターは自分のアカウントを作成しアクセス権を取得すると同時に、参加希望のコースを選択する。MEDCは参加希望の学生ならびにテューターをディレクター、リソースパーソンとともにコースに登録する。クラスは通常1クラス10～30名程度の学生から構成されるよう調整する。コースディレクター、リソースパーソンは複数コースを同時に閲覧し発言できるが、学生・テューターは基本的にクラスをまたいで発言はできない。なお、コースディレクターの判断で、学生が互いのクラスを閲覧可能に設定も出来る。ディレクター、リソースパーソン、テューター専用の「教員クラス」を別途設定し、テューターガイドなど必要な情報の提供ならびに意見交流を行う。

ディレクターあるいはMEDCは適切な時期にシナリオを掲示する。シナリオの掲示は楽位置楽The Tutorial掲示板(発言ボード)に掲示されると同時に、メンバーへメールにて通知される。学生は提示されたシナリオを読み、自分にわからない点、疑問点などを抽出し、その後調べて分かつ

たことなどとともに発言ボードに発信する。メンバーは学生からの発言に対し、意見を返信するとともに自らも学習し、その成果について発信する。チューターは学生間の発言を見ながら、学習方法のアドバイス、コースの方向性の修正を発言する。また、コースを活性化するため学生の発言を促す努力をすることも重要な役目である。ディレクター、リソースパーソンは必要に応じてコースの進行に応じた小講義を行う。なお、学生や教員用に議論に有益な参考資料や参考URLを掲示するコーナーも設定されている。

シナリオの配信はディレクターの企画にもよるが、基本的には一つのシナリオを3ないし4分割し、1、2週間毎に一度配信する。学生は発言ボードでの議論をディレクターのコース終了のアナウンスがあるまで続け、その後さらに引き続き自己学習し、最終的にレポートをMEDC宛にメールにて送付する。出されたレポートはディレクターによりチェックされ、場合によっては、本人の同意に基づきMEDCが発行するインターネットジャーナル(JMET)に掲載する。

2. 授業リンク型楽位置楽The Tutorial

楽位置楽The Tutorialは全国の学生の自由意志参加に基づき運営してきたが、ここ数年は授業の一環としての楽位置楽The Tutorialも平行して開講している。岐阜大学1年生を対象にした「医療と生命コース」がそれである。コース開始前に、学生に対し直接ガイダンスを行う以外は、基本的には通常型の楽位置楽The Tutorialと同じであり、学生は授業時間にとらわれず、いつでも、どこからでもシステムにアクセスし発言する。岐阜大学以外の大学単位での参加もあり、今年度は全国5つの医療系大学から約400名の参加があった。評価は参加大学の自主性に任されるが、レポート提出、発言数などを指標に行われている。学生参加者に比し、チューターの絶対数が少なく、一クラスあたりの学生数が多くなる(20-30名)傾向にある。

3. 楽位置楽The Tutorialの発展性

楽位置楽The Tutorialはその性格上、多面的な応用が可能である。現在、国際版楽位置楽The Tutorialならびに大学院生を対象としたコースを開講・試行中である。

4. 楽位置楽The Tutorialの課題

メーリングリストならびにwebベースの楽位置楽The Tutorialを開発・運営してきたが、大学内で行う対面式のテュートリアルに比べ、発言数が比較的少ないことがひとつの課題である。これには発言相手の表情などを見ることなく発言することへの心理的な影響も見逃すことは出来ない。システムの改良などにより、より発言しやすい環境作りを試みていく必要がある。さらに授業リンク型コースは、学生にとって単位取得という大きな到達目標があるが、自主的な参加学生にはモチベーションが希薄である。いかにコースに対するモチベーションを高めるかについて、評価法も含め更なる工夫が要求される。